

## 15 自然の森林を切り開くとどのような植物相があらわれてくるのだろうか

森林を切り開くと、前にも述べたように急激な環境変化が生じてきます。そのため、今まで生存してきた樹木の中には、その環境に適応できなくなって、枯死するものが出てきます。しかし一方では、新しくできた環境に適応した植物の侵入が開始されます。身近な例では、耕作を中止した水田や畑に雑草が侵入してくることなどがあげられます。樹木と草とのちがいはあっても現象としては同じことなのです。

森林が切り開かれたときにおこる新しい植物の侵入にも、自然界の法則が成り立っています。

それぞれの気候帯で極相となり得るカシ・シイ・ブナ・モミ・ツガ・トウヒ・アオモリトドマツなどが、人間の手によって切りとられると、それらに代って、その気候帯に生育できる陽性の樹木が入りこんでくるのです。カラマツ・カンバ・マツ・ヤナギ・ナラなどが次の森林をつくっていくのです。図-34の点線内の群落は、アオモリトドマツ林が人為的に切り取られたあとにできたダケカンバの群



図-34 アオモリトドマツ林に入りこんだダケカンバの群落(吾妻浄土平)